

日本海スケトウダラ調査速報

＝計量魚探調査（北部海域）＝

北海道立稚内水産試験場・北海道立中央水産試験場

- ◎北部海域のスケトウダラの分布量は昨年約6割。
- ◎武蔵堆西側、小樽堆海域に多く分布。
- ◎沖側の分布の主体は3歳魚（2006年級群；30～35cm）で、北海道側の陸棚には、0, 1歳魚（2009, 2008年級群）の稚幼魚が分布。

1. 調査海域と期間

2009年8月25日から9月3日にかけて雄冬沖～武蔵堆周辺海域において、試験調査船 北洋丸に搭載された計量魚群探知機 EK60 および着底トロールを用いてスケトウダラの分布調査を行いました。

2. スケトウダラ魚群の分布【昨年の約6割】

計量魚群探知機によって得られた、1マイル毎に算出した魚探反応：NASC^{注1)}値をもとに、調査海域におけるスケトウダラの分布図を図1に示しました。

今年の調査では武蔵堆西側、小樽堆海域で比較的高い反応が認められました。また、調査海域全体（雄冬沖～武蔵堆周辺海域）の反応量を比較すると、今年は2007年の約1.2倍、昨年2008年の0.6倍と昨年と比べて減少しました。注目の2006年級群は、昨年の2歳時には、武蔵堆と北海道との間の海域（島周辺や雄冬沖）を中心に分布していましたが、今年は、このような海域には少なく、武蔵堆の西側といった沖側に分布していると思われます。

3. 漁獲されたスケトウダラのサイズ

4地点でのトロール調査結果を図2に示しました。武蔵堆西側の沖の海域では、尾叉長30～35cmの3歳（2006年級群）と思われるスケトウダラが主体として漁獲され、尾叉長40cmを超える大型魚（成魚）は非常に少ないと考えられます。また、北海道側の大陸棚斜面付近には、0, 1歳魚（2009, 2008年級群）といった稚幼魚が多く分布していました。

4. 水温環境【昨年並】

トロール調査点で海洋観測を実施しました（図3）。折込根周辺では、水深100mで7.7℃、200mで2.6℃と昨年並でした。武蔵堆西側では水深100mで5.3℃、200mで2.4℃と昨年並でした。留萌沖では、表層付近では2℃ほど低いものの、水深100m以深では、昨年と同程度の水温でした。

5. 魚探画像

図4に主な調査ラインの魚探画像（エコーグラム）を掲載しました。Dライン（N44度30分）の武蔵堆西側では水深250m付近に3歳魚と推定される魚群が、北海道側の水深150m付近では0歳魚の魚群が認められました。Fライン（N44度）でも同様に小樽堆周辺に強い魚群反応が認められました。

注1) NASC：海底1マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表し、魚群分布量の指標となる。

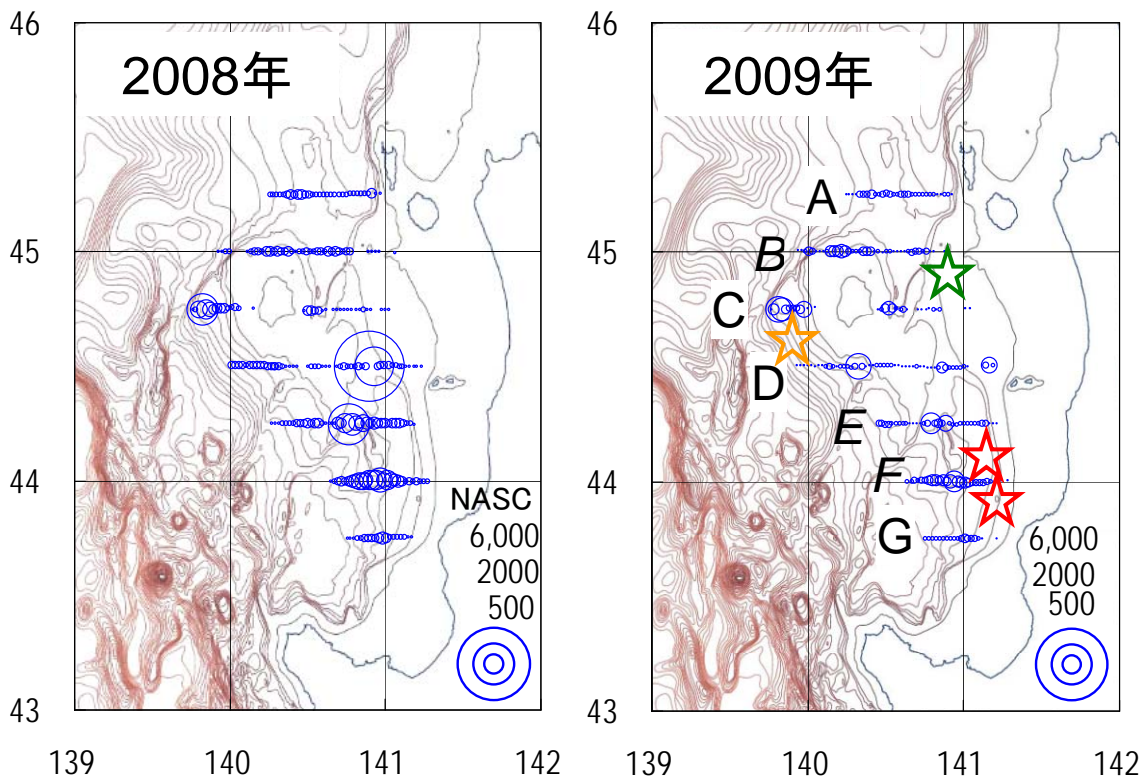


図1 スケトウダラの魚群反応量分布(NASC(m²/nm²))

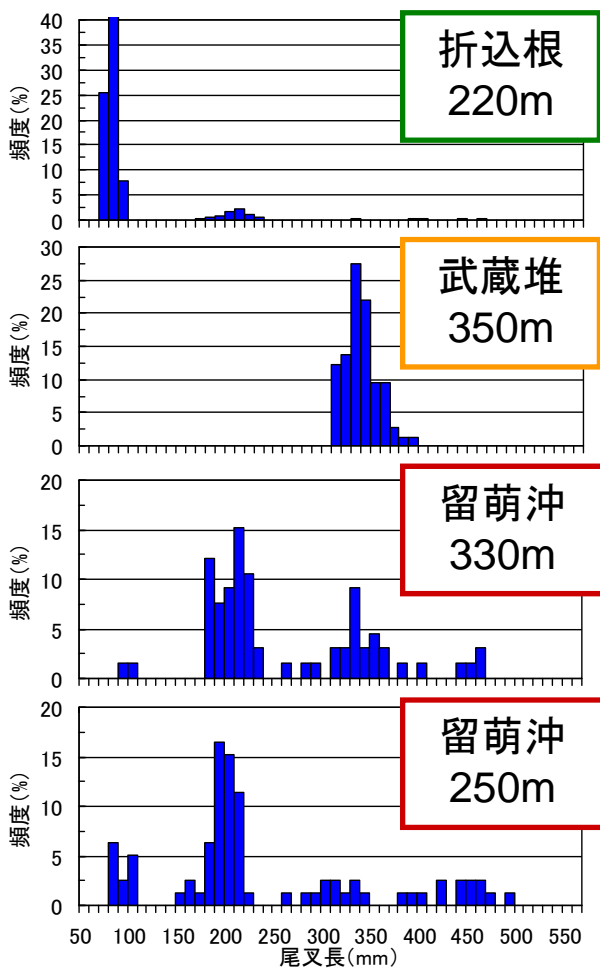


図2(左) 着底トロール網によるスケトウダラのサイズ組成

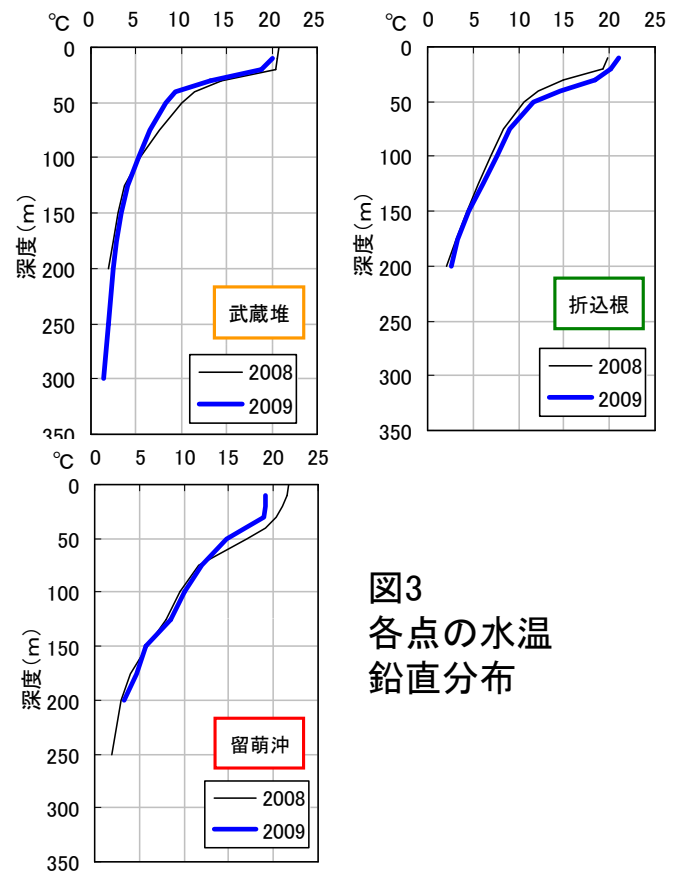
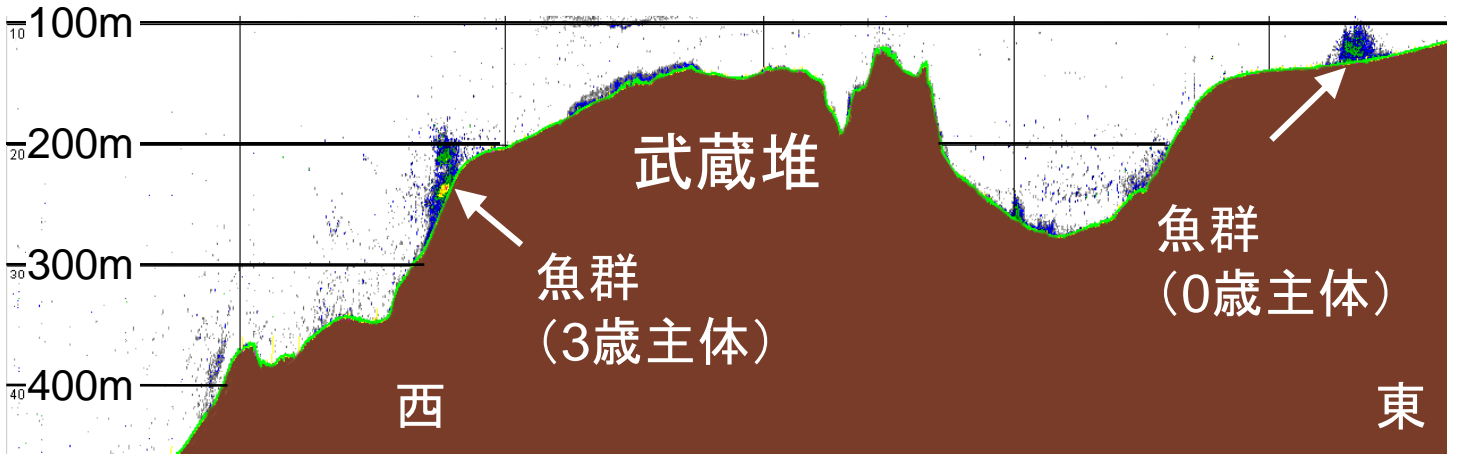


図3 各点の水温鉛直分布

D (N44度30分)



F (N44度)

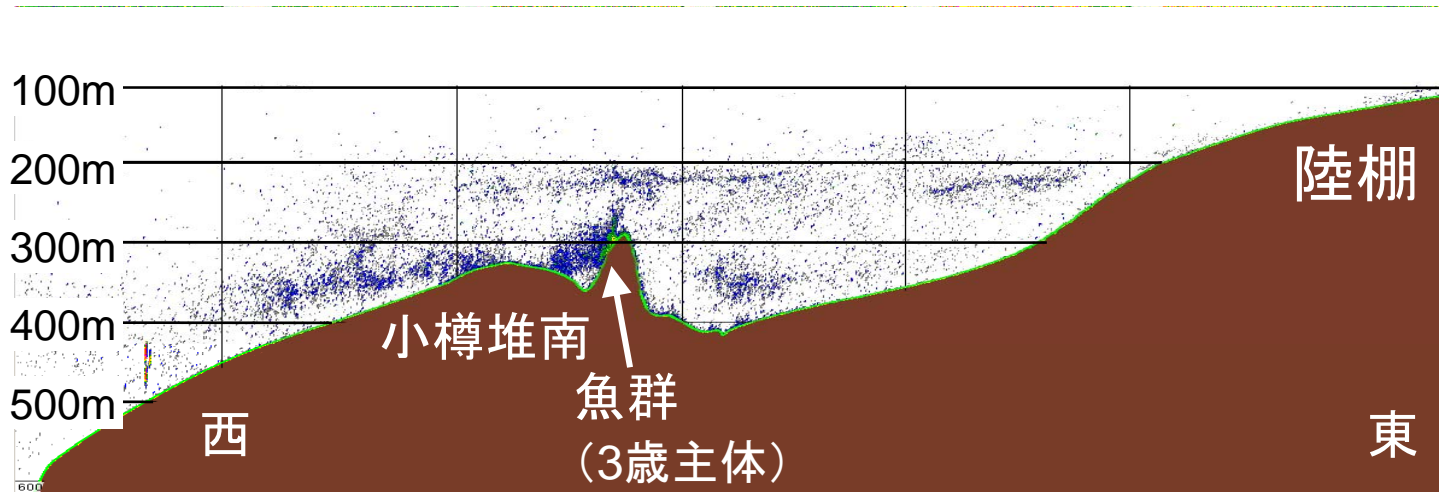


図4 武蔵堆周辺および小樽堆におけるスケトウダラの魚探画像(エコーグラム)